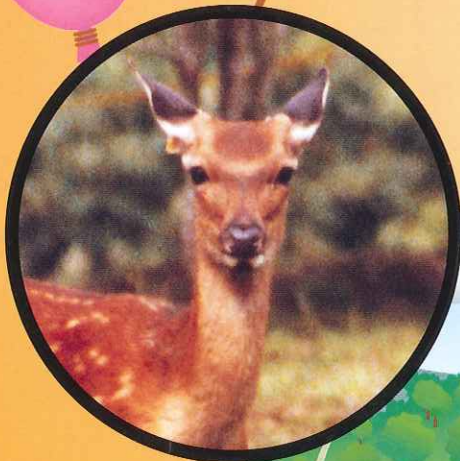




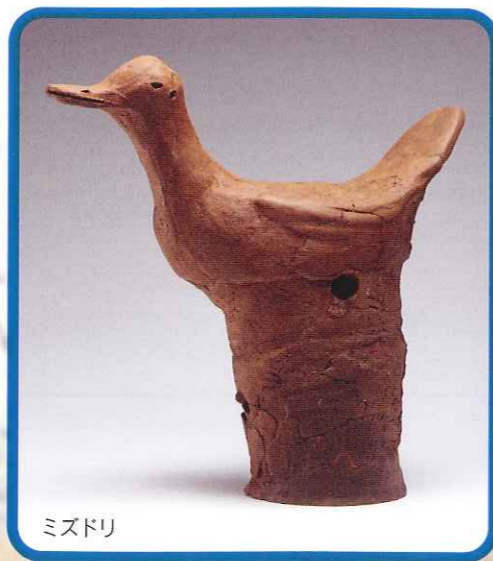
開園！印旛動物園

いにしへの
動物たち

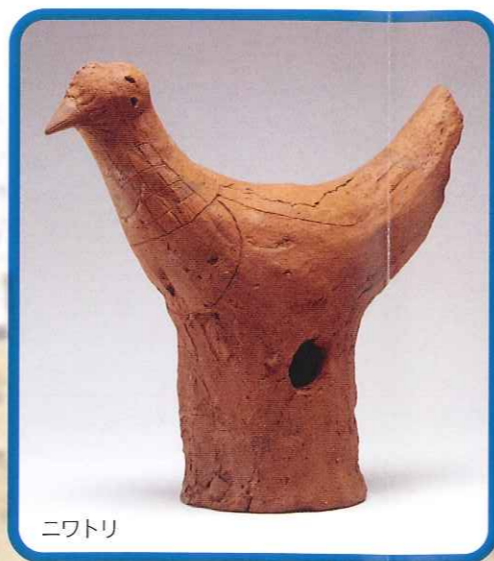




マガモ



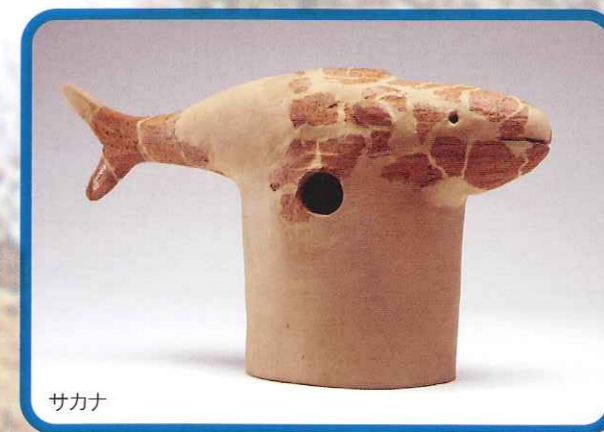
ミズドリ



ニワトリ



ムササビ



サカナ

埴輪

古墳の周囲に置かれる埴輪には円筒埴輪、そして人や動物、家などのかたどった形象埴輪などがあります。人物埴輪には武人、巫女、力士など、また動物埴輪には、ウマ、シカ、イノシシ、イヌ、トリなどがあります。この動物埴輪でもっとも多く出土するのはウマです。様々な装飾を付けたウマは権威の象徴だったと考えられます。イノシシはイヌとセットで出土することが多く、群馬県保渡田VII遺跡から、獲ったイノシシを腰に下げ弓を引き絞る武人像と2匹のイヌ、そして体に矢が刺さり血を流しているイノシシの埴輪が出土しました。これは狩猟の場面を表していると考えられています。トリにはニワトリ、ミズドリ、タカなどの種類があることがわかってきました。このトリの種類が多様化は弥生時代以来の豊作祈願に加えて、古墳時代以降に発達した祖先祭祀などが深く影響していると考えられ、葬送儀礼、復活儀礼に霊鳥として深くかかわっていたと考えられます。

このように古墳の周りに廻らされる埴輪の列は、儀式の様子や生活の風景など様々な場面を表したものと考えられています。成田市正福寺1号墳(写真上段及び中段)や同竜角寺古墳群第101号墳(写真下段)の埴輪はどのような場面を表したのか思い描いてみてはいかがでしょうか。



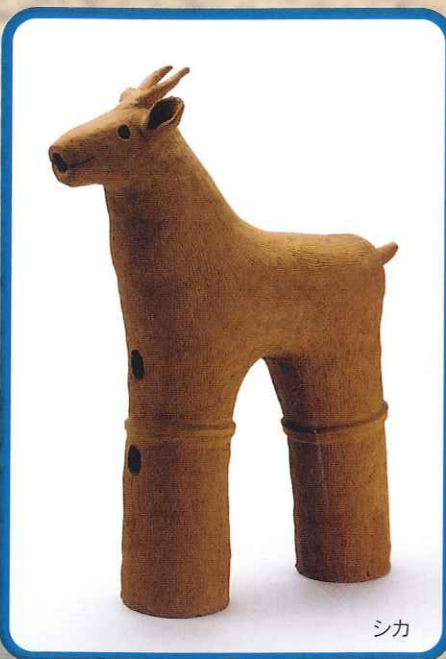
ウマ

古代



印西市北の台遺跡 ウマ

ウマは「神馬」という言葉があるように、古くから信仰と関わっており、土馬は、雨乞いの祈とうや厄払いなどに使われました。現在では、神社に絵馬を奉納しますが、その前身といわれるものです。



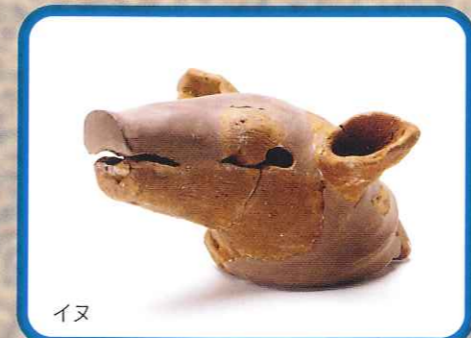
シカ



イノシシ



イヌ



イヌ



印旛村遂昌路遺跡 カイコ?

養蚕は古代中国で始められ、日本では卑弥呼の時代まで遡ることが出来ます。古代では、調(当時の税)として絹布が必要となり、養蚕が国内で広く行われるようになりました。印旛沼周辺もその一つだったのでしょう。

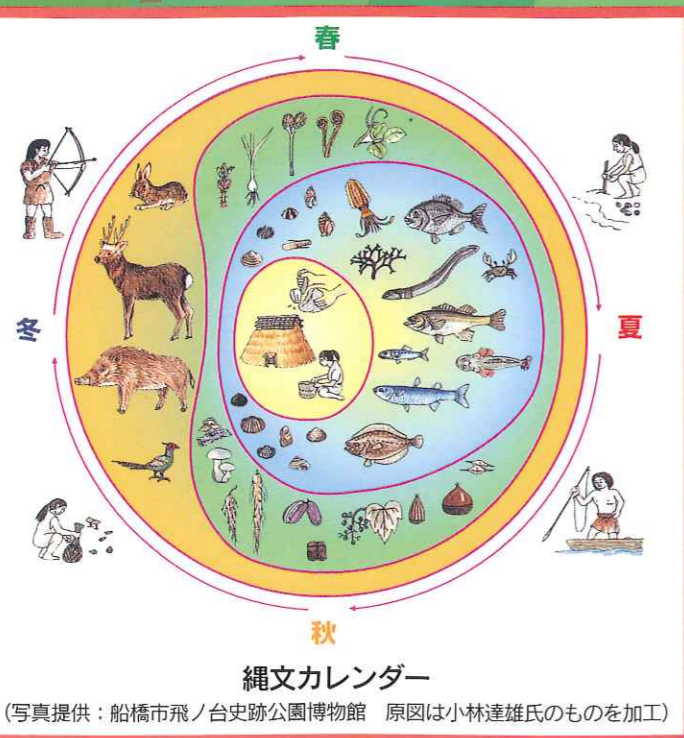
印旛動物園開園にあたって

今回は、主に印旛郡市内で見つかった動物形製品（動物形土製品・動物形埴輪の総称）を集め、動物園を開園することとなりました。様々な種類の動物たちが御覧になれるかと思えます。同じ動物を作っている、時代によっては異なる表現方法を用いているのが分かるでしょう。そして、その時代に特徴的に見られる動物形製品もあります。しかし中には、何の動物か分からない物や、これが本当にその動物なの？というものもあるかと思えます。そのような動物形製品については、どうぞ想像力を働かせてみて下さい。また違った動物たちが浮き上がってくるかもしれません。

展示において、たくさんの動物たちやその表情を観察することも大切ですが、ここには重要なテーマが隠されています。はるか昔の人々は、“なぜ”動物形製品を作り出すようになったのでしょうか？ということです。

縄文時代の人々は色々な動物を狩り、食料としていました。一年間を通して、その季節に合った動物を獲っていたようです。それを分かり易くまとめたのが、縄文カレンダーです。また、動物は狩猟の対象になっただけではなく、狩のパートナーや、ペットのような存在だったのかも知れません。しかし、基本的には野生動物ですから、恐怖を覚えることもあったでしょう。そうした様々な思いが動物形製品を作り出したのではないのでしょうか。また、儀礼や祭祀を表現したと思われる遺物も出ています。動物が持つ野生の溢れる力が信仰の対象となっていたとも考えられます。

さあ、印旛動物園の開園です。昔の人々が動物たちに何を感じたのか。そして、動物形製品を作ることによって何を託したのか。皆さんも一緒に考えてみてください。動物形製品を通して、昔の人々の思いを感じていただけたなら幸いです。



縄文時代から弥生時代

縄文時代に動物形製品が多く作られたのは、旧石器時代と同様に狩猟・採集の生活を送っていたためと考えられています。狩猟によって捕獲されたウサギやタヌキなどの小型ほ乳類やシカ、イノシシなどの中型ほ乳類は、当時の人々にとって貴重なタンパク源として欠かせないものでした。

縄文時代の人々は海、川、山、森林、動物、植物などあらゆるものに霊がやどり、それが自分たちに大きな影響を与えるものと考えていました。生活の糧のほとんどを自然に依存していた縄文の人々は、多くの恵みを与えてくれる大自然に対して感謝するとともに、また良い獲物が獲れるようにと願っていたことと思えます。

弥生時代には大陸から稲作が伝わったことにより本格的な農耕が開始され、生活は大きく変化しました。それともなって、稲の豊作祈願が行われるようになり、豊作をもたらすと考えられていたトリやシカが崇拝の対象とされました。そのような風習は現在でも東南アジアの農耕民族などに見られます。



白井市復山谷遺跡 (左) 印旛村岩戸広台遺跡 (右) イノシシ?



四街道市木戸先遺跡 イノシシ



栄町大畑 I-3 遺跡
線刻土器



佐倉市井野長割遺跡 (左) 佐倉市吉見台遺跡 (中) 栄町大畑 I-4 遺跡 (右)
イノシシ



佐倉市六崎大崎台遺跡
ヒトデ?

トリ

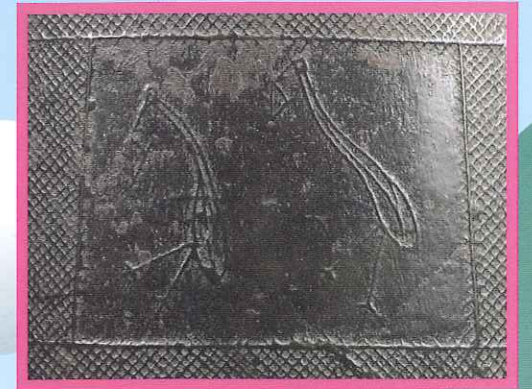
弥生時代の土器にはトリや楼閣（祭殿）などが描かれることがあります。これは天空に近い場所をより神聖な場所と考えていたためであり、大空を優雅に飛ぶトリも神聖なものと考えられました。



佐倉市宮内井戸作遺跡 トリ



四街道市池花南遺跡 トリ



国宝 袈裟褌文銅鐸 正面右中段区画部分（部分）
東京国立博物館所蔵 複製禁止
Image:TNM Image Archives Source:http://TnmArchives.jp/

サギ

稲の生育と共に田んぼに姿を現し、収穫と共に姿を消すサギの姿は弥生時代の人々にとって神秘的に映ったのかもしれませんが。島根県津和野町弥栄神社ではサギの姿に扮して鷺舞という神事が行われています。



茂原市下太田貝塚「人とイノシシの埋葬例」
(写真提供：茂原市立美術館・郷土資料館)

イノシシ

縄文時代の貝塚からはイノシシやシカなど中型のほ乳類の骨が多く出土します。とりわけイノシシは「うり坊」と呼ばれる幼獣期から成獣にいたるまで数多く見つかっています。縄文の人々は生命力の強いイノシシに強く魅かれたのかもしれませんが。



成田市山口雷土遺跡
カエル？ヘビ？



佐倉市宮内井戸作遺跡（左） 佐倉市吉見台遺跡（右）
ミズドリ



東金市道庭遺跡（左） 千葉市南二重堀遺跡（右） ミズドリ



佐倉市吉見台遺跡 サンショウウオ？



船橋市藤原観音堂貝塚「復元された縄文犬」
(写真提供：船橋市飛ノ台史跡公園博物館)



佐倉市六崎大崎台遺跡
シカ？

イヌ

イヌはヒトと最もかかわりの深い動物です。縄文時代では狩の補助などパートナーとして欠かせませんでした。船橋市の藤原観音堂貝塚で発見された犬は、骨格を基に復元され「飛丸」と名付けられました。また、年老いたイヌの骨が見つかることもあり、狩などが出来なくなったあとも現在と同じようにペットとして飼われ、死んだあとはいねいに埋葬されました。



佐倉市吉見台遺跡
ミズドリ



佐倉市吉見台遺跡 イヌ



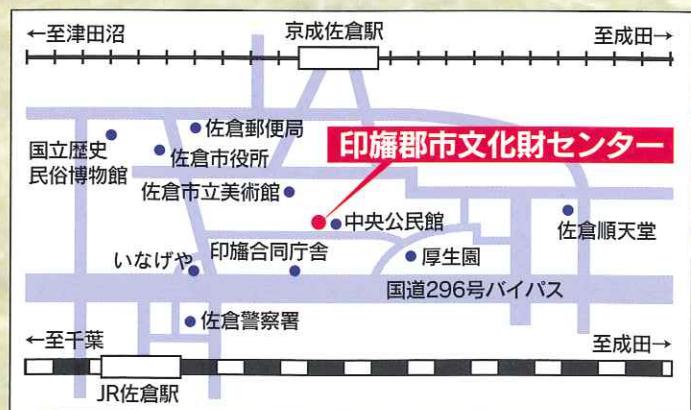
国宝 袈裟褌文銅鐸 正面右下段区画部分（部分）
東京国立博物館所蔵 複製禁止
Image:TNM Image Archives Source:http://TnmArchives.jp/

おわりに

私たちがご案内しました「印旛動物園」は楽しんでいただけましたでしょうか。イノシシやイヌ、ウマ、トリ、サカナなど見慣れた動物ばかりですが、千年以上前の動物園です。いにしえ人の作った写實的、あるいは抽象的な動物形製品はヒトとの深い関わり合いを物語っています。狩猟・採集の毎日では、動物は空腹を満たすご馳走でありながらも生命をおびやかす存在であり、時にはいつも身近にいてくれるパートナーでもありました。じっくり観察すると、展示された動物形製品から人々の思いが強く感じられるでしょう。

その後時代が移り変わり、動物たちが狩りの対象から、豊作祈願や埴輪のように葬送儀礼の一部、雨乞い儀式など、信仰の対象に組み込まれていったことがわかります。それは現代の私たちの生活にも密接につながっています。例えば神社の入口には鳥居があり、狛犬がにらみをきかせ、願い事を書く絵馬が掛けられています。また馬の保護神である馬頭観音は江戸時代に広く信仰されました。他に獅子舞など各地の民俗行事にもたびたび動物たちが登場しています。このように太古から連綿と続く、動物たちと共に歩んできた歴史の延長線上に現在もいるのです。

私たちは、動物図鑑やテレビ、インターネットなどの映像などにより、世界中に住む珍しい動物たちをも目にすることができます。しかしその生態や特徴、ヒトとの関係性についてどれだけ理解しているのでしょうか。野生動物を遠ざけて暮らす現代のヒトは、遠い昔のヒトの手から作り出されたさまざまな動物たちを当時と同じような視点で見るとは難しいかもしれません。でも千年以上前の動物園をじっくり観察してみると、動物形製品を作った印旛のいにしえ人の感情や情熱、怖れや信仰、遊び心に触れられるでしょう。もしそうであれば案内人である私たちの大きな喜びです。



資料提供 (五十音順)

- 印旛村歴史民俗資料館
- 成田市教育委員会
- 佐倉市教育委員会
- 船橋市飛ノ台史跡公園博物館
- 栄町教育委員会
- 茂原市立美術館・郷土資料館
- (財)千葉県教育振興財団
- 四街道市教育委員会
- 千葉県立房総のむら
- 落合啓二氏 (表紙ニホンジカ撮影)
- 東金市教育委員会
- 小林達雄氏
- 東京国立博物館
- 中田一真氏 (表紙イノシシ撮影)

※すべての写真は資料提供もとに著作権があるため、無断転載・複製等の行為は禁止いたします。

